
流星群

デンジャラス じ～さん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

流星群

【Zコード】

N3475B

【作者名】

デンジャラス じーさん

【あらすじ】

今日はクラスで同窓会。でも、僕は仕事があるからいけないんだ。大事な仕事をまかされたんだから。仕方ない。少しでもいいから、忘れないでほしいな。楽しんでくださいな ではどうぞ~

(前書き)

この作品はフィクションです。実際に登場人物はいたりしないので
安心してみてちょ

空一面に広がる、星。

それぞれが、それぞれの色で輝いている。

きっと。

あいつは今頃。

楽しんでるんだろうな。

今日は高校のクラスの同窓会があつたんだ。

僕のクラスは3年A組。

いろんな奴がいたよ。でも、みんないやつらだった。

僕は、その同窓会を、欠席した。つというのも、仕事仕事で休みなんでもらえないからなんだけど。

僕は今回、とうとう、大事な仕事をまかされることになつたんだから、文句なんかいつてらんない。

夜7時。おそらく、同窓会が始まつただろう。溜め息ひとつじぼしてから、パソコンと向き合つた。

会いたい奴がいたんだ。

僕の初めての彼女。

最初は沙希から。僕は魔法にでもかかつたかのように、一瞬にして彼女が好きになつた。

いろんなどこに行つたよ。彼女はすつ“いアクティブだつたんだよ。遊園地。公園。水族館・・・。

凄く。幸せだった。

そんな幸せだった日々は、卒業式の日、終わりを告げた。
「亮君は、きっと、もっと素敵の人と出会えるよ。じゃあ、ね。」

彼女は泣いていたのだろうか。
ちなみに、僕は泣けなかつた。

素敵な人なんて・・・いるはずないのに。
止められなかつた。

そんな未練が残つてたから、ひょっとして・・・とかおもつてた
んだけどなあ・・・。

「ちょっと休憩してきますね。」

そうじつて、向かったのは屋上。
外は、まだ雪をえふつてはいないものの、黙つて立つているのが辛
いほど凍える寒さだつた。

空を見上げた。今日は空が眩しい。
一緒に、見たかつたな。
一緒に、いたかつたな。

星が流れてきた。

「あれつ。流れ星・・・」

びっくりした僕は、つい口に出してしまった。

そして、また別の星が落ちた。

「凄い・・・凄い！」

感動した。

両手を握り締め、ふつとこんな事を思った。

・・・流れ星に、三回願い事言つたら、願い叶うんだよな。

だつたら。

「これだけたくさん流れ星がいるんだ。ひとつくらい願い叶えてくれよ。」

そして呟いた。

沙希が幸せになれますように。

あいつが笑つて暮らせますように。

できれば一緒にいられますように。

} e n d {

(後書き)

いかがでしたか？楽しかったですか？せつなかつたですか？つまんなかつたんですか？これからも、どんどん頑張っていきたいので、よろしくどうぞ。

ではまた、機会があれば。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3475b/>

流星群

2011年1月26日03時36分発行